小学校

光村ポケット英語

Here We Go!

実践紹介

6年 Unit 5
We live together.

単元の学びを「自分ごと」にする工夫

宇都宮大学共同教育学部附属小学校
南 勇輔先生

LINE公式アカウント友だち募集中!
授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。

光村図書

教授用資料 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

6年 Unit 5 We live together.

実践アイデア

単元の学びを「自分ごと」にする工夫



宇都宮大学共同教育
学部附属小学校
教諭
南（みなみ） 勇輔（ゆうすけ）先生



Here We Go! 6年 pp. 52-53

本単元のトピックは、絶滅危惧種や環境問題です。「絶滅の危機にある動物の気持ちになってポスターを書く」という活動を通して、動物も人間も一緒に生きている仲間だということに気づかせたい単元ですが、「自分ごと」にするのはなかなか難しいですよね。このトピックをどのように「自分ごと」にしていくか、私のこれまでの実践をベースに、いくつかの工夫をご紹介いたします。

導入は身近な動物で

絶滅危惧種や環境問題を英語で学ぶのが「難しそう」と感じるのは、子どもも同じです。だからこそ単元の導入では、「面白そう」「英語でもできそう」と感じられるように、身近な動物で楽しいやり取りをします。

まずは、教科書 pp. 52-53 の動物の体の一部分を拡大した画像を提示し、What animal is this? と尋ねます。Cat! Lion! などの声が上がりますが、ここでは、私の好きな動物、Tigerを答えにしました。その後、About You のコーナーに書かれているように、I like tigers. Do you like tigers? What animal do you like? と好きな動物について数名とやり取りをしてから、子ども同士での同様のやり取りにつなげました。

次に、インターネット上から探した動物の鳴き声の音声を流し、What sound is this? と尋ねます。Gorilla や Panda の鳴き声が答えとわかると、子どもは「声、高っ！」「意外にかわいい声！」と驚いていました。次に、Where do tigers live? と尋ねると、Zoo! との答え。すかさず低学年の遠足で行った動物園の写真を出し、That's right! と言います。にこにこしながら以前の写真を見ているところへ、Where do wild tigers live? と尋ね、動物が暮らす場所や食べるものの話題へとつなげていきました。

単元ゴールを「自分ごと」に

明確な目的や必然性をもたせ、やりたくなる活動を仕組む

単元のゴールを設定する際には、「ALTが犬よりも猫の方が好き」という話題から始めました。犬や猫が含まれる青グループと、教科書に載っている動物が含まれる赤グループとを提示し、The animals in the blue group are happy. The animals in the red group are sad. Why? と尋ねます。すると、「赤のグループは絶滅危惧種だ」ということに子どもが気づきました。

次に、ALT が「私の国にも絶滅危惧種がいて、いろいろな問題がある。日本の動物についても教えてほしい。この問題をみんなで考えたい。」と話す動画を視聴します。「みんなはどうする？直接話す？直接は難しいよね…。じゃあ、こんなふうにするのはどう？」と切り出し、私が作成したデジタルブックを提示しました。「これを作ってみたい！」という子どもの気持ちを引き出し、「デジタルブックを作り、世界の人々に日本の動物を知ってもらおう」という単元のゴールをいっしょに設定します。

導入で扱った身近な動物が絶滅危惧種だと気づき、ALT の国にもいることを知る…。このように子どもが「はっ」とする瞬間を創り出すことが、「自分ごと」にする鍵だと考えます。また、内容が難しい分、子どもがやってみたいと思えることが大切です。このときは、本への関心が高い学級だったので、教科書のゴール活動をアレンジして、Book Creator というアプリを使用したデジタルブック作りの活動にしました。

子どもと決める場を設ける

単元のゴールを「自分ごと」にするためには、子どもといっしょに決める場を設けることも重要です。前述のゴールに対し、どんなデジタルブックを作れば世界の人々に日本の動物を知ってもらえるかを話し合います。その結果、「シンプルでどんな人が見ても分かりやすく、実物を見たくなるような」デジタルブックを作ることに決まりました。

単元の計画についても、全て教師が決めるのではなく、どんなことを学んだり表現できるようになったりするとよいかを子どもと話し合って、決めます。そうすることで、１回１回の授業が単元のゴールにつながっていると感じられ、主体的に取り組むようになります。

自分なりの表現ができるように

「センテンスカード」の活用



“Iriomote wild cats live in the mountains." のカード

相手に伝えようとする際、自分なりの表現をすることが必要になります。そこで私が用いているのが「センテンスカード」です。これは、学習支援ソフト（「ロイロノート・スクール」）上の絵カードに子どもや教師の声を録音し、蓄積したものです。子どもは、友達のセンテンスカードを参照したり、友達と協力して新しいカードを作ったりしながら、自分なりの表現ができるようになっていきます。なお、センテンスカードのイラスト順に語を書くことで、語順への気づきを促すこともできます。

おわりに

デジタルブックを作った際に、I like ~. と動物になりきって音読した子どもがいました。教室の中は笑いと共感の渦に。トピックを「自分ごと」として考え、自分なりの工夫をした結果なのでしょう。単元のゴールには、こんなふうに「子ども自身が考えて工夫する余地」があることも大切です。

学習支援ソフトで授業をアップデートしてみませんか？

第１回

Googleスプレッドシートで作った、学習計画表の活用



浜松市立北浜小学校　教務主任　常名（じょうな） 剛司（つよし）先生

	自分のめあて	自分の振り返り	Study Timeに特に伸ばしたい力	Study Timeで使いたい教材	Study Timeの学び方
出席番号	Today's Goalを参考にして、My Goalを決めよう。何について、どのように取り組むのか。	今日の授業で気づいたこと、できるようになったこと、できるようになりたいこと、新たな問いについて書こう。	その他の場合は、自分で記述する。	その他の場合は、自分で記述する。	自分が成長できる学び方をしよう。
28	発音に気をつけながら曜日や教科の言い方を覚えよう.	曜日や教科をかんぺきにいえれるようにはならなかったけど少しだけ教科や曜日を話せるようになった	話す力, 聞く力	Let's watch, Let's try	誰かに手伝ってもらいたい
29	曜日や教科の言い方を知って相手に話せるようにしよう。	曜日や教科の言い方を知ることができ相手に話せるようになった。	話す力	Story	一人で学びたい
30	曜日や教科の言い方を覚え、友達とたずね合う。 曜日や教科の言い方を覚えて、話せるようにしたい。	曜日や教科の言い方を覚えることができた。 曜日や教科の言い方を覚え、友達とたずねあえた。 次は色々な人とたずねあいたい。	話す力, 聞く力	アプリ	一人で学びたい

Unit3-1　Unit3-2　Unit3-3　＋

5 年 Unit 3 の学習計画表（筆者作成）の一部

学校現場では、「自己調整学習」「自由進度学習」など、これまでの教育観や授業観のアップデートを迫られるようなキーワードが急速に広がってきているように感じます。１人１台端末も導入され、授業を変える必要性を感じているけれど、何から始めてよいかわからない、取り掛かるには心理的ハードルが高い…。そのような先生におすすめしたいのが、Google スプレッドシートで作った学習計画表の活用です。Google スプレッドシートは、Microsoft Excel によく似た機能を備え、クラウド上での共同編集がしやすいという利点を持つ、使い勝手のよいアプリです。「子どもたちの考えをリアルタイムに共有できるノートやワークシート」だとイメージしていただくとよいと思います。

学習計画表の使い方は、次の通りです。授業の初めに、教師が提示した本時の目標（ここでは「曜日や教科の言い方を知ろう」）をもとに、子どもはこれまでに自分が書きためた振り返りや友達の記述を参照するなどして、本時の自分のめあて（「発音に気をつけながら曜日や教科の言い方を覚えよう」など）を書きます。活動後、授業の終わる７分くらい前に、自分のめあてについての振り返りをします。そこで新たに出てきた自分の課題を解決するために、「伸ばしたい力（技能）」や「使いたい教材や学び方（学習方略）」を記録してから、残りの時間を「Study Time（自学の時間）」として活用します。このように、課題解決のためにどのように学ぶかを考えたり、他者の学びを参照したりする時間を設けることで、子どもは意識的に自分の学びを調整しようとしていきます。

この学習計画表は、１つのタブで全員の書き込みが一覧できるようにすることと、各時間のタブを分けることが肝心です。そうすることで、どのように課題を設定して学びを進めたかという「学びのプロセス」が、子どもだけでなく教師にも可視化されることになり、指導や評価に役立てることができるでしょう。振り返りシートを配布したり回収したりする手間もかかりません。デジタルなので、コピー・ペーストを駆使すれば驚くほど簡単に作ることができますし、持続的に運用できます。まずはこんなふうに、手近なところから始めてみませんか。

光村図書

教授用資料
発行者　吉田直樹
発行所　光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)
デザイン なるせよぞら

光村図書ウェブサイト
光村図書